

国立大学における個別学力試験の解答形式に関する研究(2)

○庄司強・宮本友弘・田中光晴・石上正敏・倉元直樹
(東北大学)

1. 問題と目的

本研究プロジェクトの目的は、国立大学の一般入試個別学力試験問題を収集して解答形式を分析することにより、現在、国立大学の一般入試が抱えている問題を析出することである。解答形式にかかわる入試改革の制度設計の根本的問題点が国立大学にも存在するならば、それを特定して改善することが個別大学の責務と考えられている状況だからである。そこで、研究(2)では、大学を単位としての分析を行う。すなわち、大学の入試問題に対する考え方や大学の特性が解答形式の分布に現れているか否かを検討することを目的とする。

高校側は、大学入試問題に大学からのメッセージや大学の特性を読み取ろうとする傾向がある。例えば、高梨(2011)は、東大は全大学の模範的な立ち位置が要求されるので分野に偏りなく出題されるが、京都大学は東大と同じ趣旨では存在理由に説得力がなくなるので少し違う出題の方向性が存在するはずである、と洞察している。こうした解釈のもと、大学の特性に応じた進路指導や受験対策がなされる。その意味において、大学入試は教育の一貫であり、大学入試問題は大切な教材である(倉元, 2001)。また、大学側からすれば、大学が求める学生像をもっとも体現しているのが入試問題であるという考え方がある(中畝, 2011)。この見方は高校側の見解と軌を一にしている。一方、大学入試問題の内容に本質的な教育的意義を感じていない大学もある。そのような大学では作題・採点に対する負担感が強い。例えば、過去の入試問題を再利用することによって、負担軽減を図ることを目的にして、岐阜大学が主幹となり共同提案された「入試過去問活用宣言」(以下、活用宣言)がある。現在、国立大学では28校が参加し

ている。日本テスト学会(2007)が編纂した『テスト・スタンダード』によれば、公開された問題の再利用は、とくにハイスタークスのテストでは項目の性質を根本的に損なうもので避けるべきとされている。

文部科学省(2016)は、「平成28年度国立大学法人運営費交付金における3つの重点支援枠」に基づき、大学を次の3つに分類した。①主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学55校(以下、地域貢献)、②主として、専門分野の特性に配慮しつつ強み・特色のある分野で地域というより世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学15校(以下、教育研究)、③主として、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学16校(以下、卓越教育研究)である。これらの分類には、人的・財政的資源の配分を目的に応じて傾斜させるしくみが付随しており、結果的に入試に対する負担感も大学の立ち位置によって異なっていることが想像できる。

2. 方法

分析対象 研究(1)と同じく国立大学76校が分析対象となった。表1に、活用宣言への参加・不参加及び3分類ごとの各科目の個別学力試験での実施状況(大学数)を示した。

分析方法 研究(1)と同じカテゴリーを使って、解答の最小単位(枝間)を分類した。各カテゴリーの度数が1以上であれば、当該大学で実施とカウントとした。

表1 科目別個別学力試験の実施大学数

	N	国語	数学 (文)	数学 (理)	英語	英語 (L)
〈活用宣言〉						
参加	27	19	16	27	25	4
不参加	49	33	32	43	46	6
〈3分類〉						
地域貢献	51	35	32	49	48	5
教育研究	10	4	3	7	8	2
卓越教育研究	15	13	13	14	15	3

3. 結果と考察

全体では(表 2)、いずれの科目においても、個別試験を実施した大学は、前期・後期日程にかかわらず記述式を実施した。また、国語と英語では客観式を実施した大学が半数以上みられた。客観式(表 3)では、いずれの科目も多肢選択式を実施した大学がもっとも多かったが、国語、英語では、一定数の大学が他の形式も実施した。記述式(表 4)では、国語は短答式、短文、長文、数学(文、理)は数式、図・絵等に集中したが、英語は数式、図・絵等以外の各形式に一定数ずつ分布した。活用宣言参加別(表 5)、3分類別(表 6)の客観式と記述式の実施状況は全体と同様の傾向にあった。

以上から、国立大学の場合、高大接続システム改革会議(2016)による“知識に偏重した選択式問題が中心で記述式問題を実施していない場合もある”という指摘には当たらない。

表2 客観・記述の実施大学数

		国語	数学 (文)	数学 (理)	英語	英語 (L)
前期 日程	N	52	48	69	71	10
	客観	32		1	57	4
	記述	52	48	69	71	8
後期 日程	N	3	5	35	20	1
	客観	2			12	
	記述	3	5	35	19	1

表3 客観式の下位分類別の実施大学数

	N	国語	数学 (理)	英語	英語 (L)
○×式			2		12
多肢選択式		32	1	53	3
複数選択式		8		7	
並べ替え式		2		20	1
その他(客観式)		1		4	1

表4 記述式の下位分類別の実施大学数

	N	国語	数学 (文)	数学 (理)	英語	英語 (L)
穴埋め式		1	48	70	71	8
短答式		50		1	26	2
短文		49	1	1	42	5
長文		52			56	4
英文和訳					60	1
和文英訳					32	1
英文日韓語訳					31	2
英作文					56	4
小論文		5			5	
数式			48	70		
図・絵等		1	14	30		

表5 活用宣言参加別の客観・記述の実施大学数

		国語	数学 (文)	数学 (理)	英語	英語 (L)
参加	N	19	16	27	25	4
	客観	13		1	22	2
	記述	19	16	27	25	2
不参加	N	33	32	43	46	6
	客観	20			35	2
	記述	33	32	43	46	6

表6 3分類別の客観・記述の実施大学数

		国語	数学 (文)	数学 (理)	英語	英語 (L)
地域貢 献	N	35	32	49	48	5
	客観	25		1	39	1
	記述	35	32	49	48	4
教育研 究	N	4	4	7	8	2
	客観	1			4	2
	記述	4	4	7	8	1
卓越し た教育 研究	N	13	13	14	15	3
	客観	7			14	1
	記述	13	13	14	15	3

引用文献

- 倉元直樹(2001). 日本の大学入試に何が欠けているか 西岡和雄(編) 教育が危ない 2 ゆとりを奪った「ゆとり教育」(pp.164-194) 日本経済新聞社
- 文部科学省(2016). 高等教育局主要事項ー平成28年度概算要求ー http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2015/08/27/1361291_1.pdf (2016年8月4日)
- 中畝菜穂子(2011). 入試問題を用いた高大連携ー新潟大学ヴァーチャル入試体験 東北大学高等教育開発推進センター(編) 高大接続パラダイム転換と再構築(pp.65-75) 東北大学出版会
- 高梨誠之(2011). メッセージとしての大学入試問題 東北大学高等教育開発推進センター(編) 高大接続パラダイム転換と再構築(pp.183-198) 東北大学出版会

連絡先: 宮本友弘(30000188) tomohiro@tohoku.ac.jp

謝辞: 本研究はJSPS 科研費 16H02051 の助成を受けた。